

第1章 はじめに

目 次

1	目 的	1
2	研究主題について	1
3	研究内容	1
4	研究方法	2

第1章 はじめに

1 目的

高度情報通信社会に対応した学校教育の質的改善を目指して、一人一人の生徒が主体的に情報を選択・活用し、積極的に発信していくための資質や能力を育成する方策を探り、学習指導の工夫改善を図るため、「コンピュータを活用した学習指導の在り方」について研究します。

2 研究主題について

(1) 研究主題

「コンピュータを活用した学習指導の在り方」

(2) 研究主題設定の理由

21世紀を展望した教育の在り方を考えるとき、高度情報通信社会の進展に対応して、学校教育の質的改善を一層進めていかなければなりません。その際、第15期中央教育審議会「第一次答申」が指摘するように、情報化が進展するこれからの社会に生きていく子どもたちにどのような教育が必要なのか、子どもたちの教育の改善・充実のために、コンピュータや情報通信ネットワーク等の力をどのようにしたら生かしていくことができるのか、どのように生かしていくべきなのか、という視点に留意して学校教育を進めていく必要があります。

情報が氾濫する今日の社会にあって、「生きる力」をはぐくむためには、膨大な情報の中から本当に必要な情報を選択・活用し、積極的に発信していくための情報活用能力を身に付けることが、これからの子どもたちにとってますます重要になってきます。

生涯学習の基盤を培う学校教育においては、コンピュータや情報通信ネットワーク等を活用して、具体的にどのように授業改善を図り、子どもたちにどのような資質や能力を身に付けさせるかという、明確な視点・目標をもって具体的に実践を進めなければなりません。

本研究は、高等学校の各教科・科目において、コンピュータを活用することによって授業改善を図り、情報活用能力の育成の方策及び情報化に対応した学習指導の在り方について、その一端を考察することとしました。

3 研究内容

(1) コンピュータを活用した学習指導の工夫

高等学校の各教科・科目におけるコンピュータを活用した授業形態・指導方法などにその工夫と改善を加え、効果的な学習指導の方策を研究します。

(2) 情報活用能力を育てる方策

コンピュータを活用した学習指導の工夫を通して、情報活用能力の育成の方策を研究します。

4 研究方法

(1) 研究期間

平成 8 年度及び 9 年度の 2 か年

(2) 研究体制

平成 8 年度は、京都府総合教育センター第 1 研究部及び第 2 研究部の所員により、組織的・計画的に研究を進め、主として研究主題に関する基本的事項を整理するとともに、当総合教育センターが実施した教科教育関係講座における実践事例を紹介しました。

平成 9 年度は、前年度の基礎的研究を踏まえ、より実践的な研究を行います。そのため、府立高等学校の教諭を研究協力員に委嘱するとともに、研究協力員及び当総合教育センター所員をもって、研究連絡会議を設置し、研究を進めていくこととします。

(3) 研究協力員

府立高等学校の教諭 4 名を研究協力員として委嘱し、研究主題にかかわる具体的な授業実践を依頼します。

研究協力員は、各自が設定した研究テーマに基づき、学習のねらいに即して、指導計画の立案から研究授業、評価に至るまで、具体的に実践します。それぞれの研究内容をもとに研究連絡会議で協議し、授業改善の方策、情報活用能力の育成等、本事業の研究主題について考察します。

それぞれの研究の成果は、第 3 章にまとめています。